

Lesson 220

発想する！授業

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

予想外の結果が得られた!?家庭教育事業

～この経験が私の社会教育士としての成長にもつながった～

三浦 良太

提案…社会教育士だからこ
そでできる「学び合い」を取
り入れた家庭教育事業をし
てみませんか。

今回は、核家族化や親子間のコ
ミュニケーション不足といった現
代の家庭教育の課題に対し、社会
教育事業がどのように解決に貢献
できるかを検証するために実施し
た「親子味噌づくり講座」につい
てご紹介します。この講座では、
特に3つの重要な成果が得られ、
多くの社会教育に携わる方々にと
って参考になる内容だと思いま
す。

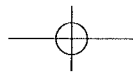
親子味噌づくり講座の概要

本事業は、4歳から9歳までの
子どもとその保護者を対象に、親
子で味噌を作る講座として実施し
ました。8組16名が参加し、教材
費は1組2000円に設定しまし
た。講師には、発酵アミューズ
の代表である土方夕暉氏をお迎え
し、味噌作りを通じて発酵の仕組

みを学びつつ、親子の絆を深める
ことを目的としました。土方氏は
元小学校教諭としての経験があ
り、学校教育と社会教育の両方で
豊富な実績を持つ方です。
本講座の特徴は、味噌作りを単
なる料理教室で終わらせず、家庭
同士の「学び合い」の機会を提供
した点にあります。参加者には講
師とともに質問をしながら、親子
や家庭間で自然な対話が生まれる
よう工夫しました。

成果1…地域のインフルエンサー
が広報を強力サポート!?

第一の成果として、Instagram
を活用した広報戦略が挙げられま
す。従来の幼稚園や保育所へのチ
ラシ配布に加え、地域のインフル
エンサーに協力を依頼しました。
フォローワー数1000人から4.5万
人を持つ20名に情報発信をお願い
したところ、12名から返信があり、
10名が講座情報を無料でストーリ
ーズにて発信してくれました。
講座参加者へのアンケート結果



では、6名中3名がInstagramを通じて参加を申し込んだことが確認できました。このことから、若い保護者層に対する「tagging」を活用した広報が非常に効果的であると実感しました。また、多くのインフルエンサーが快く情報発信に協

力してくれたことも新たな発見として大きな収穫となりました。成果2…子どもの成長を親が実感！親子のコミュニケーションの機会に

次に、親子間のコミュニケーション促進につい

ても、大きな成果が得られました。近年、スマートフォンやテクノロジーの進化により、親子のコミュニケーションが希薄化し、その結果として親が子どもの発達に気づかず、すれ違いからコミュニケーション上の問題が生じることがよく指摘されています。アンケートでは「普段は人見

知りの子どもが、このイベントでは自ら元気に挨拶をし、驚いた」という声が寄せられました。このように、講座を通じて親が気づかなかつた子どもの成長を確認できたことは、非常に意義深い成果だと感じます。

成果3…予想外の結果！家庭間交流は実は十分？

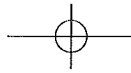
現代では核家族化が進み、親子以外の大人との交流機会が減少しているため、子どもが十分に社会性を身につけられるか心配する声がよく聞かれます。この講座では、親子が自然に他の家庭と交流できるように、テーブルを共有して実施しました。また、保護者には「お子さんは普段どのようなお手伝いをしていきますか？」と問いかけ、子どもには「お家の味噌汁で好きな具は？」などの質問を通じて、他の家庭との違いを認識してもらう工夫をしました。

アンケート結果では、事前の予想とは異なる意外な回答や考察が得られました。多くの家庭が「他

の家庭との交流機会が不足している」と答えるだろうと予想していたのに対し、実際には「交流機会は十分にある」という回答が大多数を占めました。

この結果を別の視点から見ると、納得できる部分もあります。私自身、4歳の娘を持つ親として、家庭間の交流については子育ての忙しさからあまり多くを求めていると感じます。そのため、保護者が「交流機会は十分である」と考えるのは理解できます。一方で、社会教育士としては、子どもの社会性を育むために他の家庭との交流は不可欠だと考えます。この事業を通じて、保護者が感じる「十分」と、社会教育士としての「必要」の間にギャップがあることに気づきました。

今後、このギャップを埋めるためには、保護者が他者とのコミュニケーション機会の重要性を認識することが不可欠です。そのため、講座を始める際には、この事業に込められた意義や目的を広く伝えることが重要であると考えます。



北海道札幌市在住 社会教育士
三浦 良太
連絡先
(For application only: 2525@gmail.com)
講師 発酵アミューズ代表 土方 夕暉
(https://nacoo.co/)

社会教育士だからこそできる事業
「親子味噌づくり講座」を通じて、親子間のコミュニケーション不足や、核家族化に伴う他者との接触機会の減少といった課題に対し、社会教育が果たす役割の重要性を改めて認識しました。また、社会教育士として、単なるイベントの企画や運営にとどまらず、「学び合い」の場を提供することによって、多様な課題への解決策を見出すことができると感じています。さらに、事業を進める中で、その意義や目的を広く伝えることも、より良い事業実施において社会教育士として重要な役割であると実感しました。この事業を通じて、企画や運営に関する多くの学びを得ることができ、社会教育士としての自身の成長にもつながったと感じました。

「社会教育の再設計シリーズ 新書判 4冊」書籍ガイド

社会基盤としての社会教育再考
社会教育の再設計：シーズン1
～未来への羅針盤をつくる知の冒険～

寺脇 研
山崎 亮
小田切徳典
吉田博彦
牧野 篤

日本青年館新書
社会教育の再設計シリーズ・1

社会基盤としての社会教育再考
社会教育の再設計：シーズン1
～未来への羅針盤をつくる知の冒険～
編著「学びのクリエイターになる！」実行委員会
2020年12月発行 新書判 160頁 送料180円
定価880円(税込) ISBN 978-4-7937-0140-5

- 1：社会教育から生涯学習へ政策変遷 寺脇研
- 2：コミュニティデザインの考え方 山崎亮
- 3：限界集落から反転し関係人口の拡大 小田切徳典
- 4：そもそもNPOとは何なのか 吉田博彦
- 5：社会教育の歴史から今日への課題と未来と基盤づくり
(生活の基盤としての社会教育・公民館
—自治を再発明する—) 牧野篤

◆最新刊 2023年12月21日発行◆
新書判

社会教育をまなびほぐす
社会教育の再設計：シーズン4
吉田博彦 山崎亮 牧野篤の
鼎談

社会教育をまなびほぐす
社会教育の再設計：シーズン4

吉田博彦
山崎 亮
牧野 篤

日本青年館新書
社会教育の再設計シリーズ・4

オンラインの鼎談形式
第1回「いま、社会はどうなっているのか」を紹介。第2回～第5回については「受講者の学習メモ」(概要)を記載。

編著「学びのクリエイターになる！」
実行委員会
2023年12月21日発行
新書判 80頁 送料140円
定価660円(税込) ISBN 978-4-7937-0144-3

社会教育の再設計：シーズン5(予定)
日時：2024年11月26日(火) 18:30-21:00
会場：東京大学教育学研究科内講義室
オンライン配信併用
登壇者：吉田博彦 山崎亮 牧野篤
詳細は本誌の31ページを参照

多様な実践者がひろげる社会教育
社会教育の再設計：シーズン2

今村久美
大畑伸幸
河内ひとみ
左京奈明
宮城 潤

日本青年館新書
社会教育の再設計シリーズ・2

多様な実践者がひろげる社会教育
社会教育の再設計：シーズン2
～未来への羅針盤をつくる知の冒険～
今村久美・大畑伸幸・河内ひとみ
・左京奈明・宮城潤
カタリバ、島根県益田市地域連携、広島県大竹市公民館、シブヤ大学、沖縄県那覇市公民館の活動紹介
編著「学びのクリエイターになる！」実行委員会
2021年11月30日発行 新書判 64頁 送料140円
定価550円(税込) ISBN978-4-7937-0141-2

社会教育を拡張する草の根の取り組み
社会教育の再設計：シーズン3

西上ありさ
横山太郎
上田剛奈代
栗栖真理
竹原和奈
小池良実

日本青年館新書
社会教育の再設計シリーズ・3

社会教育を拡張する草の根の取り組み 社会教育の再設計：シーズン3
全国各地の草の根「民設公民館」(居場所)を紹介
人と情報が集まるまちの茶の間 Co-Minkan
ゲストハウスとカフェと庭 釜ヶ崎芸術大学
浜田のまちの縁側 地域と学校をつなげる
場の力 世代をつなぐサードプレイス
まちのお茶の間 岡さんのいえTOMO
編著「学びのクリエイターになる！」実行委員会
2022年11月30日発行 新書判 80頁 送料140円
定価660円(税込) ISBN 978-4-7937-0142-9

書籍は書店または直接 日本青年館編集部 までご注文下さい。
TEL 03-6452-9021 FAX 03-6452-9026 メール social-edu@nippon-seinenkan.or.jp